校長通信

絶好調！

【第１９号】
３１．３．８
校長　向笠真司

「餞…はなむけ」の日

三年生を送る会

「餞」は『はなむけ、旅立つ人を見送る』という意味です。もともと「はなむけ」という言葉は、旅立つ人の乗った馬の鼻を行く方向に向けて、無事に旅ができるように祈りながら送り出したことから来ている言葉だそうです。今週の火曜日に行われた三送会は、文字通り卒業して新しい世界に旅立とうとしている3年生への「はなむけ」となる会でした。

今年の三送会は、初めに生徒会長の小林和夏さんから、昨年５月の生徒総会の最後に３年学年委員長の木田明里さんが、「３年生から全校生徒へのメッセージ」として伝えた言葉、**「１・２年生のみなさんは、私たち３年生を信じてください。必ずより良い船橋中を作って巣立って見せます。」**という言葉を紹介して始まりました。【→校長通信 第３号】

各学年の発表は、１組の体育館に響き渡る大きな声での**合唱『僕らの世界』**と、笛と太鼓の軽快なリズムに乗って扇や傘を使って踊る**「成田祇園・佐原囃子」**で幕を開けました。

1年生は、各クラス代表の男女２０名がステージ上に上がり、音楽に合わせてコンサート会場さながらにペンライトを振りながらキレキレのパフォーマンスを披露し、その後、学年全員が３年生を囲んで、感謝の気持ちを込めて**『春風の中で』**という歌を精一杯歌いました。

2年生は、〈あとを引き継ぎます！〉という思いを込めて各部活動からのメッセージ映像を流した後、全員でGReeeeNの**『遙か』**を熱唱しました。この歌の歌詞には、旅立つ決意と親への感謝、未来への不安と希望など、様々な思いがちりばめられていました。

そして3年生からは、クラスカラーの１０色をモチーフにしてそれぞれのクラスが考えた「感謝」をテーマとした映像が流され、その後、全員で立ち上がって後ろを向き、体育館の後方に座っている１・２年生とその後ろの保護者に向けて、FUNKY MONKEY BABYSの**『ありがとう』**を熱唱しました。3年生全員で力の限り歌ってくれたこの歌は、各クラスから出されたいくつもの候補曲の中から、最後に感謝の気持ちを込めて学年全員で歌うのに一番ふさわしい、という理由で生徒達が決めた曲だったそうです。

「3年間の思い出のスライド」が体育館のスクリーンに映し出された時には、3年生だけではなく全校の生徒が一心に見つめていました。懐かしい場面が次々と映し出され、可愛らしかった１年生の頃の姿に大騒ぎしながらも、もう戻れない時間を目の当たりにして、ちょっぴり神妙な表情になっていた３年生の姿がとても印象的でした。

おそらく、３年生が「ありがとう」を一番伝えたかったのは、それぞれの家族だったのではないかと思います。３年生のお礼の言葉の中にも、そして「感謝」をテーマにした映像の中にも、普段はおそらく口にはしづらい「親への感謝」の言葉が何回も登場していました。保護者のみなさんもとても感激されて、３年生の最後の歌を聴きながら、涙をこらえきれない方も大勢いらっしゃいました。今回**<u>＜親の思いは強く、そして暖かい。その思いは子ども達にしっかりと伝わるものだ＞</u>**ということをあらためて感じた瞬間がたくさんありました。生徒会本部、各学年の実行委員を中心に、全校生徒が思いを合わせて心温まる三送会を作り上げてくれたことを、本当にうれしく思います。

３年生のみなさん、「信じてついてきた」後輩にバトンは繋がりましたよ。<u>「ありがとう！」</u>